

肉用鶏の衛生水準の向上等に関する検討会（第4回）議事概要

- I 日 時： 令和7年1月22日（水）9：30～11：38
II 場 所： 農林水産省共用第2会議室
III 概 要：

- 畜産技術協会による鶏肉生産における衛生管理の必要性に関する発表後、議題に沿って事務局から資料を説明。中間取りまとめ骨子（案）及び今後の進め方について（案）は、委員から了承が得られた。その際、委員からは、中間取りまとめ骨子（案）にある様々な取組について、関係省庁が主体的に取り組むことを期待する旨の発言があった。

- 委員の主な意見については、以下のとおり。
 - ・ 生産段階においてカンピロバクターを低減させるには、有効な管理手法の確立が必要。
 - ・ 定量的なデータについては、リスク評価及びリスク管理に資するものであるならば、中期的な調査計画を立てた上で、定期的な計画の見直しなどにより確実に実施できるようにすることが重要。
 - ・ 農場への侵入経路推定のための自主検査や諸外国で効果が期待されているハエ等の侵入防止対策を対象とした管理手法のモデル実証を試みて、その有用性を明らかにしてみてもどうか。

 - ・ 自主宣言のうち独自の取組については、科学的根拠に基づかない取組や品質面での優良誤認を惹起する内容などが氾濫しないようにする必要があり、掲載のルールを明確にすることを強く望む。
 - ・ ポータルサイトに応援企業である旨を掲載するだけでは、消費者認知にほとんど効果が期待できない。応援企業には、自社のホームページなどに自主宣言を応援する旨を表明することを要件としてどうか。
 - ・ 一部の生産者や処理場などには、国際的な認証の食品安全規格を取得している企業があり、自主宣言が加わることで、それらの施設や消費者も混乱をしてしまう可能性があるのではないかと懸念がある。

- ・ 今後、自主宣言の対象を小売業・飲食業にも拡げてフードチェーン全体で取組む仕組みとしていただきたい。さらには、この取組が、人の健康のみならず、動物や環境を守るものとして、企業価値を高め、業界の食品安全文化醸成のきっかけとなることを期待。
- ・ 自主宣言の見せ方として、生産者の意識や生産現場での取組を動画などにより理解しやすい形とすることは良い。自主宣言の取組が、生産者、消費者、飲食店など関係者のカンピロバクターに対する安全性などの意識の向上につながるのではないかと。ひいては、業界全体、社会全体での意識が向上することを期待。
- ・ 社会は日本の養鶏現場の衛生管理の水準は高いものと認識していると思われ、自主宣言が、当たり前の取組を開示するというものであれば、社会の意識の向上には期待薄であるため、自主宣言の要件の明確化や自主宣言を認証とするとかを考えてもよいのではないかと。
- ・ ポータルサイトにおいて、企業間取引や消費者の直接購入などの機能も検討してみてもどうか。
- ・ 自主宣言の取組がカンピロバクターの低減などに効果のあるものなのか、点検する仕組みが重要。
- ・ 自主宣言の取組が進展したとしても、飲食店に対し、再教育を含め加熱調理の必要性を再認識させ、衛生対策を徹底させることが極めて必要。自主宣言によって、さらに飲食店が「安全なので生や加熱不十分でも問題がない」と誤解してしまう可能性があるのではないかと。
- ・ 人々の行動を変える戦略（ナッジ理論）の活用により、消費者が鶏肉を加熱したくなるような情報提供がなされることを期待。
- ・ 情報提供の効果測定や検証などにより、行政の情報提供の在り方の不断の改善が重要。

(以上)